

整形外科レジデントマニュアル 第2版

田中 栄 ● 編

大島 寧, 齋藤 琢, 武富修治, 廣瀬 旬, 松原全宏, 森崎 裕 ● 編集協力

〔評者〕 山下敏彦 (札幌医大教授・整形外科学)

本書は、わが国における最高レベルの整形外科診療・研究を展開している東大整形外科および関連施設のスタッフの執筆による、整形外科初期・後期研修医(レジデント)向けの手引書である。2014年の初版から6年ぶりに改訂され、近年の整形外科医療の進歩に即応した up-to-date な内容となっている。

一方、整形外科医療には、骨折・脱臼の処置、関節内注射、手術基本手技、周術期管理、インフォームドコンセントなど、昔から変わらない基本事項がある。レジデントにとっては、それらこそ最初に身に付けるべきものであり、整形外科医としての基盤となるものである。本書の前半の「総論」ではこれらの基本事項が丁寧に解説されている。さらに、他書にはみられない「治療法選択にあたってのガイドライン、文献の使いかた・調べかた」「カンファレンスでのプレゼンテーション」「学会発表(症例報告)の意義とその方法」などもレジデントにとってうれしい項目であろう。極めつけは、本改訂版から新たに加わった「整形外科の基本必須事項」である。ここには東大整形外科において長年にわたり語り継がれてきた心構え、べからず集が列挙されている。「治療方針に迷ったら、自分の大切な人にならうするかを考える」「医師は『大丈

夫だろう』と思っても、看護師は『何かある』と患者の変化をとらえる」「3椎体以上にまたがる椎体炎は結核性を疑う」などの箴言や教訓が散りばめられている。それは、あたかも何十年にもわたって注ぎ足されてきた老舗のタレやスープのように味わい深く、また貴重なものである。

後半の「各論」では、脊椎・上肢・下肢疾患、腫瘍、関節炎、骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームなど、レジデントが知っておくべき整形外科疾患について、図や写真を多用して、簡潔かつ明快に解説されている。それぞれの疾患について、「問診で確認すべきポイント」「主訴」「行うべき評価・検査」「画像診断のポイント」「治療」「予後」「患者説明と指導」と、実際の診療の流れに沿った構成になっている。その過程において、いかに著者が診断し、治療方針を立て、どのような点に気をつけながら治療を進めたか、という思考過程を読者が追体験することができる。本書の帯に、「わたしたちの頭の中お見せしまーす」というキャッチフレーズが書かれているが、まさに本書執筆陣の最高レベルの頭脳をのぞくことができ、そこから多くのことを学ぶことができる。その意味では、本書はレジデントのみならず専門医にとっても有用なマニュアルであるといえる。



本書はスマートフォンより一回り大きい程度のまさしく携帯サイズである。今や、「携帯」は携帯電話やスマートフォンの代名詞となったが、本書もまた、診療の合間や、出張の移動中、当直室のベッドの中などあらゆる場面において、もう一つの「携帯」として活用できる価値ある一冊である。

B6変型・458頁

2020年5月

定価: 本体4,500円+税

ISBN978-4-260-04157-7

医学書院刊